

課題情報シート

課題名：	沖縄県宜野座村立博物館収蔵品管理システムの開発		
施設名：	沖縄職業能力開発大学校		
課程名：	専門課程	訓練科名：	情報技術科
課題の区分：	総合制作実習課題	課題の形態：	制作

課題の制作・開発目的

(1) 課題実習の前提となる科目または知識、技能・技術

オブジェクト指向システム開発手法、UML(Unified Modeling Language)
サーバサイド Java プログラミング、ユーザコミュニケーション技法など

(2) 課題に取り組む推奨段階

オブジェクト指向システム開発手法やサーバサイド Java プログラミングの基礎技術を
習得後

(3) 課題によって養成する知識、技能・技術

オブジェクト指向システム開発手法、UML(Unified Modeling Language)、サーバサイ
ド Java プログラミング、ユーザコミュニケーションなどの実践的なシステム開発の技
術・技法の習得

(4) 課題実習の時間と人数

人 数：3名

時 間：224 時間

本総合制作実習では、地域貢献の一環として、沖縄県宜野座村立博物館の収蔵品管理システムを開発しました。この開発を通して、現場のシステムエンジニア（SE）が日々行っている作業（要求定義・設計・実装・テスト）を総合制作実習の中で体験し、システム開発の実践的な技術・技法を修得します。また、実際にこのシステムを利用する博物館スタッフの方々とのコミュニケーションを重視し、レビューや議事録作成、プロジェクト内での進捗状況、報告・連絡・相談を徹底して行い、ユーザであるスタッフの方々が満足するシステムを目指して開発を進めました。

課題の成果概要

博物館スタッフの要望事項に基づいて、以下の4つの収蔵品管理システムの機能を開発しました。

(1) 収蔵品データの登録

収蔵品データ「寄贈資料整理カード」をデータベースに登録する機能である。スタッフが入力・確認しやすいように普段使い慣れている「寄贈資料整理カード」の記入順に入力

ボックスを配置しました。

(2) 収藏品データの変更

登録した収藏品のデータを修正するときに使用する機能です。

(3) 収藏品データの削除

登録した収藏品データをデータベースから削除するときに使用する機能です。

(4) 収藏品データの検索

検索機能では、スタッフの要望を元に、収藏品の受入番号、資料名、方言名、寄贈者名、分類、採取地、保管場所から収藏品を検索できるようにし、検索結果の画面などは、「寄贈資料整理カード」の様式に可能な限り近づけ、操作しやすく工夫しました。

収藏品資料画面

ログイン > メニュー > 検索 > 検索結果 > **収藏品検索**

全 09件中 16件目のデータです

分類	交易
受入番号	500 -
登記番号	F-2048-26
ネガ番号1	
ネガ番号2	
写真	
図	

寄贈資料整理カード

寄贈年月日	資料名	方言名
1987年 01月08日	モウばん 算盤	
採取地	宜野座村字物産2048-26	
寄贈者	るくやまのむしよ 福山区事務所	
住所	採取地と同じ	董名
保管場所	特設	図号



※使用方法・作成方法・材料・入手経路・その他

・購入品で福山区の事務処理に際しては昭和38年昭和40年頃まで使用される。(裏に、所有主 福山区事務所と記し込まれる) ・福山区長(吉橋次郎氏)倉庫整理の際にこの算盤と萬吉蔵本帳がでてきたので史員室に寄贈を申し出る。

検索結果に戻る メニューに戻る 次へ

データの更新 データの新規 05P01

収藏品検索画面

博物館スタッフの方々に試作版を操作していただきました。スタッフの皆さんから、今まで紙ベースで収藏品を管理していたが、このシステムを利用することによってとても管理・検索が容易になったと高い評価を頂いた。

課題制作・開発の訓練ポイントおよび所見

本総合制作実習では、サーバ・ネットワーク構築技術よりも、沖縄県内の IT 企業の開発 SE が行っているアプリケーション開発に主眼をおいて作業を実施しました。そのために、できるだけ現場の SE が行っている作業工程に沿って開発を行い、学生が実践的な技術・技法、さらに SE としての基本技能を身に付けることができるように指導を行いました。この実践的な開発を通して、学生は、ユーザコミュニケーションの重要性やシステム設計の大切さを認識したと考えています。

養成する能力 (知識、技能・技術)	課題制作・開発のポイント	訓練（指導）ポイント
<ul style="list-style-type: none"> ○オブジェクト指向システム開発手法 ・ UML(Unified Modeling Language)の理解 ・サーバサイド Java プログラミング技術 ・ユーザコミュニケーション技法 ・実践的なシステム開発の技術・技法など 	<p>○本総合制作実習では、地域貢献の一環として、沖縄県宜野座村立博物館の収蔵品管理システムを開発しました。</p> <p>実際にこのシステムを利用する博物館スタッフの方々とのコミュニケーションを重視し、レビューや議事録作成、プロジェクト内での進捗状況、報告・連絡・相談を徹底して行い、ユーザであるスタッフの方々が満足するシステムを目指して開発を進めました。</p>	<p>○業務システムを開発している現場 SE の作業工程に沿って開発を行い、学生が実践的な技術・技法、さらに SE としての基本動作を身に付けることができるようにプロジェクトリーダー的立場で指導を行いました。</p>

課題に関する問い合わせ先

施設名 : 沖縄職業能力開発大学校
住所 : 〒904-2141
 沖縄県沖縄市池原 2994-2
電話番号 : 098-934-6282（代表）
施設 Web アドレス : http://www.ehdo.go.jp/okinawa/index_pid_28.html